

## はじめに

著者	伊田 久美子, 田間 泰子
引用	女性学連続講演会. 2006, 10
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10466/9994">http://hdl.handle.net/10466/9994</a>

## はじめに

今期の連続講演会では、「ジェンダー論の現在」と題して、社会的・文化的な性差をあらわすジェンダー概念を用いた新たな研究の展開と現状を考えてみました。

ジェンダーという用語が広く用いられるようになって、すでに20年以上が経過しています。今日では政治、経済、社会政策を論じる上で、「ジェンダー」は必要不可欠の概念として、国際的に用いられています。また学術研究において、ジェンダーの視点はあらゆる領域に浸透し、従来の研究を問い直し、新しい問題領域を掘り起こしています。この20数年の間のジェンダー研究の蓄積はめざましいものがあります。また、ジェンダー概念は学術的な議論によりつねに新たな検討がされつづけています。

女性に対する差別抑圧は長い間生物学的性差によって当然視されてきました。ジェンダー概念は、性をめぐる差別的状況は変えることができるという認識の上に成り立ち、近代的制度、科学が前提としてきた男性中心のものを見方を問い直すためのツールとして用いられてきました。

今期は労働論、歴史学、家族研究、文化論、経済学の分野においてジェンダー研究があげてきた成果を検証しながら、ジェンダー概念がはたしてきた役割についてみなさんと共に考える機会としました。

世界の動向に反してジェンダー概念が政治的攻撃の標的にされかねない日本の現状において、この連続講演会がジェンダー概念の意義を検証する機会のひとつを提供することができますよう、願っております。

女性学連続講演会・連続セミナーに積極的に参加され、熱心に討論していただいたみなさまに心から御礼申し上げます。

大阪府立大学女性学研究センター

伊田 久美子

田間 泰子